

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2007年9月28日

80号

NPO法人「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

試練を前進の糧にしよう！

——重い障害者の生活には、それなりの補助金を...——



ようやく秋です。8月はいつもお休みを頂いていますので、2か月ぶりの通信となりました。皆さんお元気でしたでしょうか。

7月はじめのイベントの後始末も終えないうちに、またまた大問題が発生。私たちの長年かけてきた障害者グループホームへの活動を根底からゆるがす様な一連のできごとです。

もともとよつばホーム・第2よつばホームは、重度重複の障害を持ち、家庭でも家族の高齢化や、病気のため養育介護の困難な状況にある人たちを、地域のなかで支えてゆこうとして、家族や職員、ボランティアがいっしょになって、必要にせまられ設立したものです。

したがって、いかにしたら限られた補助金の中でやってゆけるか、それをどう支援していくか、というところからの出発であり、足りないところは、いわば善意とボランティア精神で補ってきました。そこに、夜間の勤務に対する報酬の考え方で不十分なものがありました。

近い将来に細かく改善策をご報告できるようになればいいなと思いつつ、ただ、たくさんの協力と勇気を持って取り組み始めた地域での重度障害者の生活を、何とかして守りたいと念じて、毎日頑張っています。

* * *

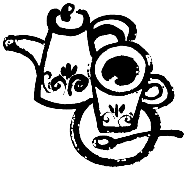
まだまだ地域の中には、たくさんの重度障害者がいます。ここで私たちの支援する「よつばホーム」が崩れるようなことがあれば、これから立とうとしている人たちの力をそぐこととなります。そして続く人たちがなければ、いつまでもごくわずかな例だとして、福祉の片隅におかれ必要な支援を得ることなど遠いままとなります。

『親が抱えてゆけばよいのか...』という問いかけを続けることになるのです。

* * *

重い障害を持った人たちの生活には、それなりに公的な支援を増額して欲しい。たとえばグループホームの場合ならば、ひとり職員が泊まればよいところも、4人のスタッフが必要などころもあります。命と生活を守るために必要な支援なら、その必要に見合う補助金を出して欲しい。それがみんなの願いです。

そして、スタッフの“やる気”や“善意”に頼らざるを得なかった、これまでの運営のもろさを反省しつつ、また“本当の福祉”への問いかけをしながら、頑張っていきたいものです。



**この部屋で会話するのは いろいろな人。
今日は、キンジストロフィーの画家大塚晴康さんを、重度障害者のYさんが訪ねました。**

◇ ヘルパーさんを頼むとき 留意することはなんですか？

◆ 僕たちは、生きるために人の手を借りなければならない。ヘルパーには、遠慮はせずに自分の意思是伝えるようにしているの。ただ、ある程度のレベルまでで、それ以上は望まない。困る人は、ケアマネジャーに言って変えてもらう。だって自分が生きるんだから、まかせっぱなしにはできないのだから... ただしくコミュニケーションをしていかなければならない。つまり、自分で補っていく努力をしなければ自分にあった支援はできないのよ。

◇ 私は、言葉が不自由だから... やっと話が上手に通じるようになると、「残念ながらさよなら」という事が多い。だから会話ができて友達のようにになると嬉しいけれど、心配もしてしまう...

◆それは僕も同じ。そこを育てるのが、自分の仕事だと思っているの。そのうちどうやったらできるのかわかってくるはずだから。そういうことなのよ、大変だろうけど。

それに、必要なときにその時間帯でやってくれる人は少ない。たとへば、お風呂にしたって、僕はお風呂に入るために仕事をやめることはできない。何とか「夜でもよいよ」という人を見つけなければならないのだけど、そのためには、自分でも協力できる事をプラスしてよい条件を作っていかなければと思っている。

たとえぎりぎりの状態でも、工夫していくのよ。しゃべれない人は、どうするかとか...。小さくてもグループホームは、団体の場だから、一人ひとりに合わせたらやっていけない場面もある。その中で、どれだけ一般の生活ができるか... 楽しくしてくれるのを待っているだけじゃ駄目だと思うね。

*** お話は まだまだつづきました。では、また次号で... ***

*** 訃報 ・ 心よりの感謝と共に、ご冥福を祈ります ***

*** 会員の小栗由美子さんが、9月21日にご逝去されました。**

私たちと共に、チャリティーコンサートの実行委員を務めてくださるなど、数々のご支援をいただきました。いつも はじけんばかりの笑顔と美声で、いろいろなボランティア活動をして下さいましたが、20年近くもの「活動ホームしもだ」のコーラス指導の中で教えてくださった歌は数限りなく、いまでも障害者たちの耳にこだましている事でしょう。

*** 顧問会員の手塚和夫さんが、9月18日にご逝去されました。**

手塚さんは、新吉田連合町内会長、西部町内会長として、またグループホームよつばホーム運営委員会副委員長として私たちを支えて下さいました。まだご縁の無かった新吉田町の皆様とともに、重度障害者たちを受け入れる素地を作して下さいました。



めがねの声

■横浜療育園で・・・

今年は、夏が大変な年でしたが、皆さんはいかがでしたか。

8月の終わり頃 よつばホームの 藤田博之さんが始めは風邪をひいて「活動ホームしもだ」をやすみしました。

グループホームの会議があって わたくしもよつばに行ったとき、藤田さんが、前の晩はよく眠れたし 食事もたくさんたべられたのに 急に大変になっていて、背中を トントンたたいてタンをはかせていました。

横浜療育園で診てくれるというので、グループホームから急いで職員とお母さんと一緒に出かけ、すぐ入院になりました。一度は、肺炎で大変になりましたが、いまは少しずつよくなっています。

横浜療育園は、重い障害の人たちが入所したり、デイサービスに行ったりしますが、専門の病院もあります。私は 対象になっていなかったのので、初めて行きました。

博之君は、個室から今は大きい部屋に移り、先生も「早くグループホームに帰れるといいね。」と言っているそうです。

ずっと前に「しもだ」に通っていた鈴木康一君も、入所しているので、待ち時間に会いに行きました。康ちゃんはニコニコして、ベッドの上で少しずつ足でけて回っていました。母に、ずっとここにいたのよと聞いて、私はびっくりしました。広い畳の部屋で、みんなで遊んでいるのかと思ったからです。時々「しもだ」の友達もショートステイではいます。まだ2階は見学していませんが、ずっとベッドの上ならかわいそうだなと思いました。

藤田さんと同じ部屋にいた人のお母さんと少しお話をしました。

「ずっと食べ物を口から摂っていたんですってね」と驚いていました。母が「藤田君は、好きな食べ物ならニコニコして食べるのに、チューブでおなかに入れるのでは、味がわからない。かわいそうだわ」といいます。

私と藤田君は、おさしみやおすしなど、大体同じ物が好きで、音楽や歌も好きなものがにっています。そして私も普段は、外の人にはわかりませんが、風邪をひくと、タンをはいたり鼻水を出したりができなくなるので、とたんに重い障害者になります。いつもグループホームのスタッフや、しもだの職員たちや母が気をつけてみていてくださいます。自分でも風邪にはきをつけています。

早く藤田君が帰ってきて欲しいと祈っています。今度は 酸素の機械も必要になるので おかあさんや職員たちも そろそろ退院の訓練に入っているそうです。

大原友子

よつばホーム

まだまだ残暑がきびしいですが、みなさまいかがおすごしでしょうか。

8月はデイサービスの夏休みがありました。この夏休みを利用して外出したお話です。

勢津子さん・花岡さんは新横浜のスーパー銭湯『港北の湯』へ行きました。

よつばホームからタクシーを利用し、約15分くらいのところ
です。『港北の湯』では理髪をしてお昼ご飯も食べて、買い物もして。もちろん温泉も♪ とても充実した一日を送ったようです。

温泉効果でツルツルピカピカになってました。 o@(^^)@o。
よつばホームへ戻ると二人とも満足そうな笑顔を見せてました♪



次郎さん・藤田さんの男性陣は綱島駅前のファミリーレストランへランチに♪

店内に入るなり次郎さんは早速メニューをチェックします。メニューを隅々までチェックして大好きなパスタに^^ 藤田さんはハヤシライスを注文します。もちろん大好きなアイスコーヒーも♪ レストランでの食事は楽しそうで、二人とも終始ご機嫌でした^^

9 / 24 藤田さん誕生日でした。 (*°▽°) / °・°* 【祝】 *:° \ (°▽°*)

第2よつばホーム

今年の夏も暑かったですね。みなさま体調は大丈夫だったでしょうか？さて、第2よつばホームの入居者も、夏の暑さで少し疲れが出てしまった人や、体調を崩してしまった人もいましたが、先月の夏休みはそれぞれに楽しく過ごしたようです。今回は、そんな夏休み中のお話です。。。

親戚の方や兄弟が来て楽しくワイワイと過ごした人は、その時の話を聞くとニコニコしていました。おうちでのんびりと過ごした人は、暑さに負けなかったからか元気に帰宅しました。

家族で海に行ったという人は、腕や顔がすっかり日焼けしていて、今年の夏の暑さを物語っていました。反対に暑さから逃げて涼しいところで過ごした人は、疲れも取れた様子で帰宅してきました。スタッフ同士も休み中に出かけたことを聞いたり話したり、それぞれの夏を満喫できたようでした。

